

TOPICS
3トピックス…③
平成30年度（第57回）
農林水産祭天皇杯等の選賞

平成30年10月18日、農林水産祭中央審査委員会（会長 難波 成任氏）が開催され、平成30年度（第57回）農林水産祭の天皇杯受賞者、内閣総理大臣賞受賞者、日本農林漁業振興会会長賞受賞者が決定された。畜産部門からは、熊本県山鹿市で酪農を営む内ヶ島賢勇・美津代（うちがしまけんゆう・みつよ）ご夫婦（高品質な生乳・堆肥生産に立脚した「質で勝負」の高収益酪農経営）が天皇賞に選賞された。

1. 農林水産祭とは

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37（1962）年から実施している。

天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞は、過去1年間（平成29年8月～平成30年7月）の農林水産祭参加表彰行事（302件）において、農林水産大臣賞を受賞した512点の中から決定されたものである。各賞は、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門の7部門に授与される。また、女性の活躍が著しい2点に対して、内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞が授与される。表彰は、勤労感謝の日の11月23日、明治神宮会館で開催した農林水産祭式典において行われた。

2. 経営の概要

内ヶ島牧場のある山鹿市は、熊本県の北部内陸部に位置し、酪農は戸数34戸（経産牛は約2千頭）で、県内市町村別の規模では菊池市、合志市に次ぐ酪農地域である。

内ヶ島賢勇氏は、昭和63年に就農し、平成9年に経営移譲をされた就農2代目の酪農経営者である。平成17年に（有）茶ノ木を設立して経営の高度化を図り、翌年にはフリーバーン・パーラー方式の牛舎を新築して今に至る。経営は夫妻と長男夫妻の4名を主体に、両親が随時手伝う形の家族労働力6名で、経産牛78頭と未経産牛32頭を飼養している。高泌乳を追い求めず、牛群の繁殖状況と乳生産のバランスを考慮した飼料設計、暑熱対策、衛生的な搾乳作業など、牛のことを一番に考えた「質で

勝負」の経営を実践している。

3. 経営の特色

（1）高品質な生乳・堆肥生産に立脚したゆとりある高収益経営

①乳脂率4.08%、無脂固形分率8.91%、体細胞数9.6万個と高品質な生乳を安定的に生産しており、九州生乳販連生乳品質共励会において5年連続で優秀賞以上を受賞した。このため、生乳1kg当たり単価は県平均より約3円高く、高収益性を実現している。

②堆肥生産技術は、県のコンクールで「堆肥の達人」に認定されるほど優秀である。堆肥を飼料畑への還元や牛床の敷料として利用している。

③哺乳ロボットを活用した労力軽減、月2回程度のヘルパー利用も組み合わせ、労働時間1日1人当たり7.1時間のゆとりある経営を実現している。

（2）女性の活躍

美津代氏と長男の妻の2人は、主に搾乳、哺育、生乳生産管理の作業を行い、飼料収穫の繁忙期にはトラクターやダンプの運転もこなしている。また、美津代氏は、小学校での食育講座や酪農女性部での活動に取り組むなど、地域や産業振興のために活躍している。

（3）普及性と今後の発展方向

飼料の成分バランスを考慮した飼料設計、良質な戻し堆肥の敷料利用、推奨される搾乳手順を遵守した乳房炎コントロールなど、飼養技術は地域の酪農家の模範となっており、堅実でゆとりある経営モデルとして普及性が高く期待できる。

平成30年度（第57回）農林水産祭天皇杯受賞者一覧

部門	出品財	受賞者		表彰行事
		住所	氏名等	
農産・蚕糸	経営（水稻・秋小麦）	北海道	佐藤 忠美	第47回日本農業賞
園芸	経営（トマト）	愛知県	J A 豊橋トマト部会 （代表 大竹 浩史）	第47回日本農業賞
畜産	経営（酪農）	熊本県	内ヶ島 賢勇※ 内ヶ島 美津代※	平成29年度熊本県農業コンクール大会
林産	経営（林業）	三重県	速水 亨※ 速水 紫乃※	全国林業経営推奨行事
水産	産物（水産加工品）	静岡県	有限会社西尾商店 （代表 西尾 公伸）	第64回全国水産加工たべもの展
多角化経営	経営（ねぎ）	京都府	こと京都株式会社 （代表 山田 敏之）	平成29年度全国優良経営体表彰
むらづくり	むらづくり 活動	岩手県	本寺地区地域づくり推進協議会 （代表 佐々木 勝志）	第40回豊かなむらづくり全国表彰事業

（注）氏名等の欄に※を付したのは、夫婦連盟で表彰するもの。